

国立病院機構の相談事例データを生かした
相談員・肝炎医療コーディネーターの養成およびスキルアップ

研究分担者 八橋 弘 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター
臨床研究センター長

研究要旨

国立病院機構病院及び国際医療研究センター病院 34 施設に通院加療中の肝疾患患者約 6,331 名に対して行ったアンケート調査結果の中から肝疾患患者の悩みと心情を分析することで、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成を目指した。

解析の結果、B 型肝炎患者と C 型肝炎患者では、肝炎に感染していることで差別を受けるなど、いやな思いをしたことがある場面や内容、頻度が異なることを明らかにした。C 型肝炎患者では、感染に関するエピソードが、B 型肝炎患者では社会でのエピソード、家族結婚交際に関するエピソード、学校仕事関係に関するエピソードが高頻度であった。

相談員・肝炎医療コーディネーターは、B 型肝炎患者と C 型肝炎患者では、悩みやいやな思いに関するエピソードや頻度が異なることを意識した上で、相談に関わることが望ましい。

A . 背景、目的、方法

先行研究において実施した、国立病院機構病院及び国際医療研究センター病院 34 施設に通院加療中の肝疾患患者約 6,331 名に対して行ったアンケート調査（調査期間は 2012 年 2 月から 7 月）の中で、1412 名において自由記述の記載が見られた（[図 1](#)）。そのうち 544 名は、「肝炎に感染していることで差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか？」の問いに、『いやな思いをしたことがある』と回答した（[図 1](#)）。544 名の記述内容を分析することで、肝疾患患者の悩みと心情を理解、事前学習することにより、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成を目的に解析をおこなった。

B . 結果、成績

上記 544 名の記述の中で C 型肝炎患者は 337 名、B 型肝炎患者は 207 名であった。『いやな思いをしたことがある』の自由記述の中からテキストマイニングを用いてキーワードを抽出することにより、1.病院関係、2.感染、3.日常生活、4.社会、5.家族結婚交際、6.学校仕事関係、7.家族以外の人間関係の 7 つにカテゴリー化した（[表 1](#)）。その頻度は、病院関係は 56.4%、感染 64.3%、日常生活 25.2%、社会 22.4%、家族結婚交際 25.6%、学校仕事関係 25.4%、家族以外の人間関係 18.4%であった（[図 2](#)）。『いやな思いをしたことがある』の頻度としては病院での出来事、感染に関するエピソードの頻度が高かった。

C 型肝炎と B 型肝炎で『いやな思いをしたことがある』の頻度を比較すると、感染

に関するエピソード (C型 64.3% VS B型 56.0% $P < 0.01$) ではC型肝炎患者で頻度が有意に高いも、B型肝炎患者では、社会でのエピソード (B型 36.2% VS C型 13.9%、 $P < 0.001$)、家族結婚交際に関

するエピソード (B型 39.1% VS C型 17.2%、 $P < 0.001$)、学校仕事関係に関するエピソード (B型 30.9% VS C型 22.0%、 $P < 0.05$) に関するエピソードが有意に高頻度であった (図3)。

図1. 肝疾患患者の悩みと心情を理解し事前学習することにより、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成

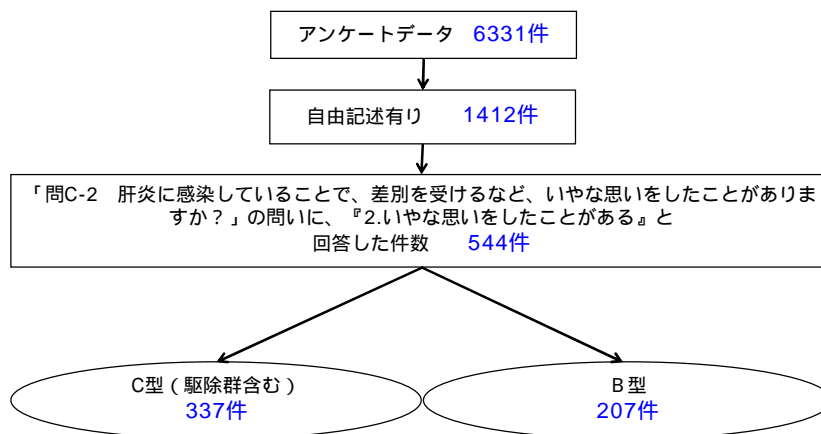


表1. 肝疾患患者の悩みと心情を理解し事前学習することにより、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成

自由記述のカテゴリ化 (N=544)

病院関係	感染	日常生活	社会	家族・結婚・交際	学校・仕事関係	家族以外の人間関係
入院	つば	アートメイク	メディア	家族	介護仕事	なまける
出産	エイズ	タオル・洗濯	差別	交際相手	仕事	人間関係
別室診療・後回し	出血	トイレ	献血	交際相手親族	出世・異動	内緒
医師	感染	ローン	知識・情報	性交渉	受験	友人
医療	病名	保険	社会	結婚	学校	噂話
医療機関	遊んで	入浴	訴訟	離婚	就職	嫌な顔をされた
器具		寮			職場	暴力
手袋・ラップ・消毒		日常生活			退職	言わないこと
整形外科		生理中			食品	
検診		美容室				
歯医者		老人施設				
注射		蚊				
産院		食事				
看護師・医療関係者		食器				
耳鼻科						
胃カメラ						
診断書						
診療拒否						
集団予防接種						

図2. 肝疾患患者の悩みと心情を理解し事前学習することにより、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成

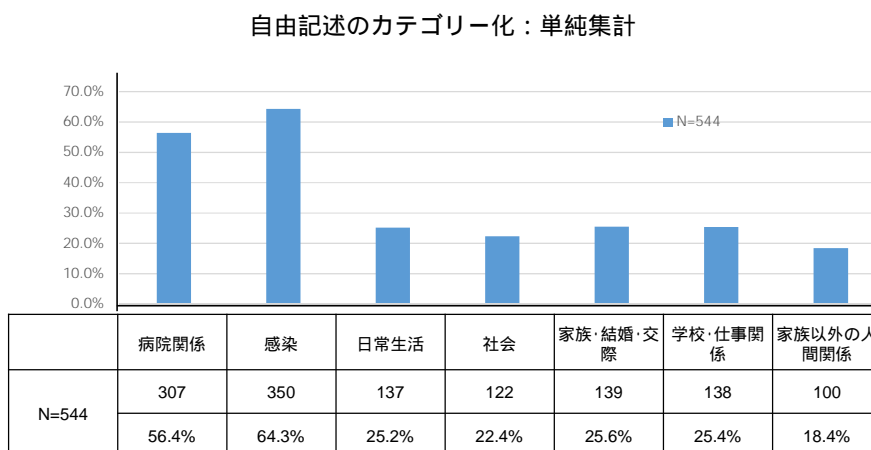
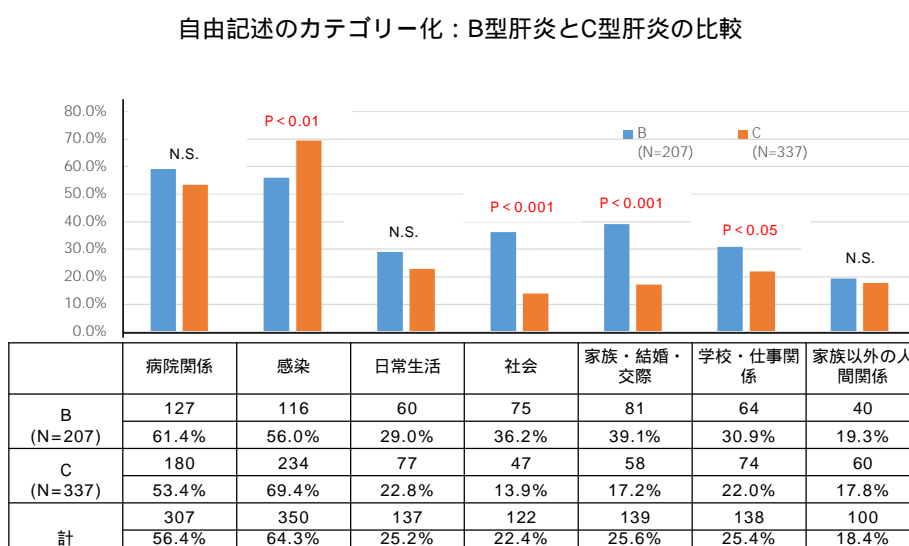


図3. 肝疾患患者の悩みと心情を理解し事前学習することにより、相談員・肝炎医療コーディネーターが、似たような事例に対して対処できるような学習プログラムの作成



C . 考察

B型肝炎患者とC型肝炎患者では、肝炎に感染していることで差別を受けるなど、いやな思いをしたことがある場面や内容、頻度が異なる。C型肝炎患者では、感染に関するエピソードが、B型肝炎患者では社会でのエピソード、家族結婚交際に関するエピソード、学校仕事関係に関するエピソードが高頻度であった。

しかしながら、C型肝炎は最近の抗ウイルス治療の進歩によって高率に治癒させることが可能となった。治癒患者では感染のリスクが無くなることから、治療の普及とともに、C型肝炎患者での感染に関するいやな思いに関するエピソードは減少することが期待される。

D．まとめと今後の課題

相談員・肝炎医療コーディネーターは、B型肝炎患者とC型肝炎患者では、悩みやいやな思いに関するエピソードや頻度が異なることを意識した上で、相談に関わることが望ましい。

今後は、本アンケート自由記述の中から典型的なエピソードを抽出して、相談員として適切な対処の仕方についての見本を作成する。

E．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

G．知的所有権の取得状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし